



明治維新とは 何であったのか

講師◎梅田正己さん

『日本ナショナリズムの歴史』全4巻の著者

日時 | 2018年10月27日(土) 午後2時-4時

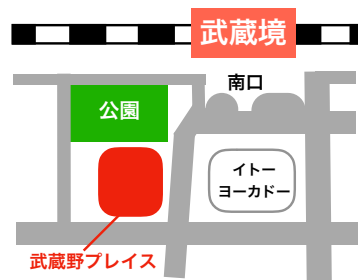
会場 | 武蔵野プレイス4階 フォーラム A&B

(定員100名、先着順)

東京都武蔵野市境南町2-3-18 ☎0422-30-1903

JR中央線「武蔵境」駅南口から徒歩1分

参加費 | 1,000円



「明治150年」一政府の先導で祝祭ムードが高まりつつあります。

では、その出発点・明治維新とは何だったのでしょか？

司馬遼太郎氏は「西郷以下、志士たちは何の青写真も持っていなかった。

行き当たりばったりの変革だった」といい(『「明治」という国家』)、

半藤一利氏は「薩長による暴力革命だった」(『幕末史』)と切って捨てます。

しかし、明治維新が近代日本の出発点だったことは間違いありません。

それをどう捉えるかは、私たちの歴史認識の根幹にかかわる問題です。

「日本ナショナリズム」の源流から形成、確立、そして崩壊という歴史過程の

系統的解明に初めて挑んでダブル受賞したジャーナリストが、

近代日本の原点について清新な視点から自由な発想で論じます。



「2018年には『明治150年』を迎えます。16年10月、安倍内閣は早くもその記念事業・式典を行なうことを決定しました。その記者発表の場で語られた菅官房長官の言葉はこうでした。――「明治の精神に学ぶ、日本の強みを再認識することは極めて重要だ」。その式典の場で、叔父の佐藤栄作元首相にならって、安倍晋三首相がどんな「明治評価」を表明したいと考えているか、およそ想像がつくでしょう。……近代日本の出発点である明治維新とそれに続く明治期日本の歩みをどうとらえるかは、まさに今日の問題であり、それを空白のまま放置しておくわけにはいきません。」(梅田正己『日本ナショナリズムの歴史(Ⅱ)』「あとがき」より)

梅田正己(うめだまさき) ●1936年、佐賀県唐津市に生まれる。一橋大学社会学部卒。三省堂勤務を経て、1972年、出版社・高校生文化研究会(のち高文研)を設立、「月刊・考える高校生」(のち「ジュ・パンス」)の発行と共に教育書、人文書を発表。2012年、同社代表を退く。著書に『これだけは知っておきたい・近代日本の戦争』(高文研)、『この国のゆくえ』(岩波ジュニア新書)ほか。最新刊の『日本ナショナリズムの歴史(I~IV)』(高文研、2017年)で平和・協同ジャーナリスト基金賞、JGJ(日本ジャーナリスト会議)賞を受賞。